

第 3 期 瀬谷区地域福祉保健計計画策定懇談会 議事要旨

- 1 日時 平成 27 年 1 月 29 日（木）午後 2 時から 4 時まで
- 2 場所 区役所 5 階大会議室 A B
- 3 出席者 出席 21 名 欠席 4 名
- 4 議事要旨

内容

1. 第 2 回地域福祉保健計計画懇談会の振り返り （資料 1）**2. 全域計画骨子案について （資料 2、3）****全域計画骨子案について主な意見**

①全域計画においても区民の理解や参加、協力が必要であり、計画に盛り込んだ方がいい。

②第 2 期計画では基本目標に「個性を尊重する」を掲げてあったが、骨子案では格下げされている。第 3 期でも「個性を尊重する」を継続していく必要がある。

事務局：1 期 2 期では「個性を尊重する」を基本目標に掲げていたが、個性を尊重する具体的な取組として位置づけていきたい。

③基本目標Ⅲについて「誰もが尊重され、誰もが活動に参加される」という表現にすると良い。

④「個性と立場を尊重する」という言葉はよい。

◇障害は個性であり、外国籍の方も含めると「立場」という言葉を入れるとわかりやすいと思った。

◇「個性」と「立場」について、特に弱い立場の子どもや認知症の方々をしっかりと計画の中でみてあげることが大事ではないか。

⑤「誰もが」という言葉に、疎外感を感じるマイノリティーの方がいるかもしれない。

◇注釈として「子ども・障害・外国籍の方、LGBT（性的少数者）」を入れると、「誰もが」に含まれていることが分かる。

⑥「個性の尊重」の「個性」は非常に曖昧。きちんと市民、区民として義務を果たしての個性でないと困る訳で、ここは慎重に考えるべき。

⑦基本目標は短く端的に表したほうがよい。

⑧推進課題にある「ネットワークの構築」について、地域と行政、各関係機関がもっと連携を図らないと本当のネットワークにはならない。

事務局：推進課題の「情報を共有する」について、地域でネットワークの構築や支えあいの仕組み作りをする中で情報が重要と考えており、事務局から課題提起させていただいている。

⑨基本目標Ⅰの「向こう三軒両隣」は基本だと思うが、もう少し広い視野に立った見守りはどうか。

◇顔の見える関係づくりでは、班や組等小規模のものから自治会町内会となっている。

◇向こう三軒両隣の表現は時代に合っているかは考えた方がよいかもしい。

事務局：全域計画の内容は次回以降検討していただきたい。

3. 地区別計画策定指針について（資料4）

地区別計画策定指針についての主な意見

①基本目標Ⅱ「健康で長寿なまちづくり」について

◇横浜市は「健康長寿日本一」を目指し、全市的に「ウォーキングポイント事業」「健康スタンプラリー」等、瀬谷区でも「パークで筋トレ運動」を推進している。基本目標Ⅱで触れられるといい。

②方向性・視点①「地域福祉を幅広い福祉として捉える」について

◇「直接的には福祉活動ではないと思われる取組」「地域福祉的な視点」「地域福祉の取組を幅広い福祉としてとらえた場合」という3つの文言があるが、ニュアンスとしてはわかるが、住民の自主的な活動の側面を加えた方がわかりやすくなるのではないか。

◇まだまだ福祉は社協がやればよいと思われがちだが、区民の生活に直結したものであることがわかるように「地福計画はまちづくり計画である」としっかり謳った方がよい。福祉の捉え方をいろいろと説明せずに「まちづくり」という言葉を使った方がより生きてくるのではないか。

◇NPO法人セクターよこはま自主事業である地域づくり大学校では、福祉をやろうと思って集まったのではなく、住んでいるところをより良くしたいという気持ちで活動している。もう少し福祉の言葉を砕けさせて表現しても良いのではないか。

③方向性・視点②「地域全体で取り組む」について

◇「多くの方が関わるができるような体制づくりを整える」「若い世代の出番や意見を聞く場を作る」等の文言は大賛成であるが、これを実行に移すための各地区の具体的な取組事例が必要ではないか。

◇第1期計画の時は、多くの区民が広い場所に集まって意見を聞く場を最低1回は作ったので、その事例などはどうか。

◇紹介されていない地区は取り組んでいないのかと思われてしまうので、どの地区でも取り組んでいるのでうまく表示して欲しい。

④区民意識調査と地福計画づくりがもう少しリンクすると良い。

◇次回の区民意識調査で「地域福祉保健計画を知っているか」「地域で取り組んでいるか」等を聞き取ると良い。計画の項目がどこまで到達したのかの把握が必要で、各

地域の評価も大事だが、区をあげた取組なので、区で行う意識調査にも反映しつつサイクルを示した方が張合いもあり、納得してもらえるのではないかと。

- ⑤「他所の地区を学びに行く」「ワークショップを開催する」等策定する時の手法のようなものは書かないのか。

事務局：具体的なやり方を示すと「やらなくては」、と地域に縛りをかけてしまうので「このようなやり方もあります」程度にしたい。

⑥基本目標Ⅲ「誰もが活動に参加する地域づくり」について

◇障害者を受け入れる風土ができているのかどうか。「誰もが活動に参加する」の参加する対象者や「幅広い世代」は、もしかしたら健常者をイメージしているのではないかと。

◇「誰もが参加する」の「誰もが」の中に浮かばないものがあれば主語に出す必要がある。

⑦「子ども」の主語としての明記がないことについて

◇あらゆる世代の参加の中に「子ども」を主語にした主体が欲しい。日常の取組～地域づくりのイメージ図では、高齢など地域の活動で進んでいる分野が中心となっていて、子どもの姿が見える視点を入れて欲しい。

◇地区の小学校では、子どもが自分達をしっかりと見直そうと、いいところ・問題箇所をまち歩きしてまとめたり、地域の中で役に立ちたいということで菊づくりに招待したりしてくれている。

◇子どもの防災活動では、子どもが地域の役に立つ子どもになって欲しいということで防災拠点の活動では食料品の配布を手伝ったり、簡易ベッドを一緒に作ったり等、先生も子ども自身も意識が高くなっている。

◇地域の中で子どもが自主的に行っている活動は思いつかないが、子どもが活動の一環の中でボランティア活動等に関わるというのは多い。

◇日常の取組～地域づくりのイメージ図の中の“運動会”“お祭り”に子どもが頭に浮かぶ。「子どもが主体」というより、「子どもと一緒に」になって地域が何かをやっていくのも重要だと思う。その中で子どもが地域で育っていき、やがては地域を担う人になればよい。

◇1期、第2期の成果も高齢者に関するものが中心である。担い手も子育て世代から離れている人が多い。子育て世代の居場所づくりを地域がする等、地域でその世代とつながろうということがわかるようなものが欲しい。

◇「福祉に直結しない活動」という否定的な表現を避けて、「まちづくりの全てが」等、全ての活動が地福計画に直結するという表現の方がよいのではないかと。

◇幼稚園から中学校までの子どもが中心となり、音楽活動を5年位やっているが、幼稚園の子からお年寄りまで来て、感銘を受けて帰る取組がある。「まちづくり」、「こころを育てる取組」を実際やっているのだから、それを広げていくのもよい。

- ◇「子どもの意見を取り入れる余地を持っている」ことを謳ってほしい。
- ⑧区社協が、高校生が生活保護の小学生の宿題をみる活動を行っている。高校生が地域に入って学習支援をするのは素晴らしいこと。貧困を断ち切るというのも地福計画の中に入ると他の地域にも広まるのではないか。
- ⑨イメージ図の最後の枠の「生活課題への解決へ」は、「自殺防止」「いじめ防止」等、マイナスイメージが強くプラスのイメージの言葉も入れた方がいい。

4. 地域福祉保健計画の愛称について (資料5)

愛称についての主な意見

- ①副題の中で「いろいろな人が関わっている」「福祉保健計画」ということがもう少し分かるように表現すれば、理解が進むものではないか。

5. その他

高齢障害支援課から 「瀬谷在宅医療相談室」について情報提供を行う。

事務局：今回は、「みんなが」「まちづくり」「こどもから高齢者までみんなが」が表せるようなイメージで副題を考えて来ていただきたい。

以 上

次回

平成 27 年 3 月 5 日 (木) 15 自～17 時 瀬谷区役所 5 階大会議室 A B